資料2-3

大方中学校の『防災教育』
～犠牲者ゼロを目指すために～

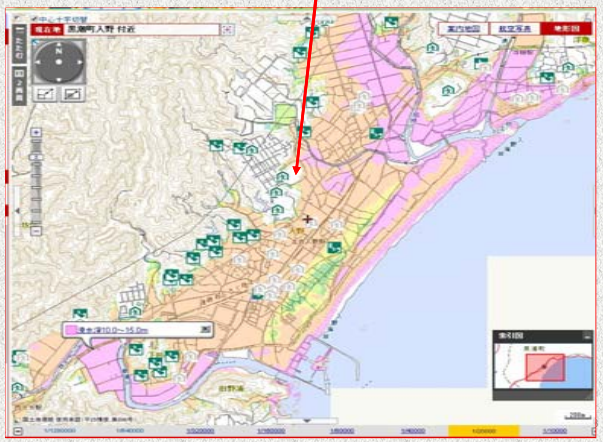
黒潮町立大方中学校　宮川　昭二

1. 大方中学校の概要

生　徒　171人
教職員　25人

【黒潮町における津波の浸水地域について】
住民の8割が浸水地域に住んでいるとされる

1. 黒潮町立大方中学校の概要（大方中学校周辺）



1. 黒潮町立大方中学校の概要

2. 以前の『大方中防災教育』

年6回の避難訓練（点の防災教育）

【1回目避難訓練】 遠足における避難訓練
【2回目避難訓練】 保小中高合同訓練
【3回目避難訓練】 黒潮町一斉の避難訓練
【4回目避難訓練】 部活時における避難訓練
【5回目避難訓練】 火災時における避難訓練
【6回目避難訓練】 朝練習時における避難訓練

避難訓練前後に行う知識重視の防災教育
（一つ一つがつながらない点の防災教育）

1回目　避難訓練　1年生歓迎遠足

2回目　保小中高合同避難訓練

「副読本を使った」防災教育の授業

これまで防災教育の成果と課題

【成果】
（1）避難訓練の回数を重ねるほど、避難に関する意識が高まった。
（町内一斉避難訓練への参加呼びかけ）
（2）保小中高において連携して避難訓練を実施することができた。（事前学習会の実施）

【課題】
（1）防災教育の年間計画を見直し、1～3年生までの系統的な防災学習を実施する。
（2）防災教育を学校として取り組むために、研究組織を確認する。

3.防災教育の組織について

大方中学校4つのプロジェクトの組織

夢実現	学び	優しさ	イベント
一人ひとりの夢が実現する大方中学校【防災教育・人権教育・キャリア教育の研究推進】	学び合う授業で将来に生きる学力をつける大方中学校	社会に通用するマナーを身につける大方中学校	かけがえのない仲間との思い出を重ねる大方中学校
キャップA（メンバー4人）	キャップB（メンバー5人）	キャップC（メンバー5人）	キャップD（メンバー5人）

【各学年部のメンバーを４つのプロジェクトに割振る】

隔週の火曜日に検証の会議

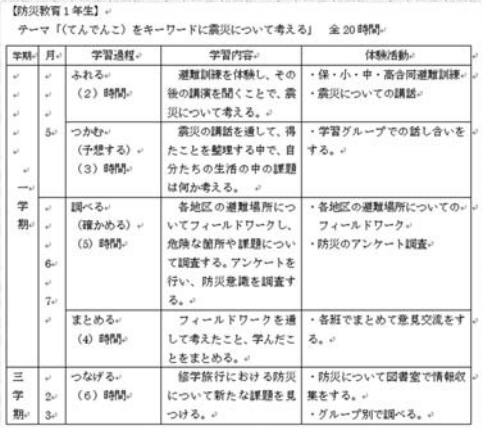
【各リーダー4人＋主幹教諭、教頭、校長】

4.各学年の具体的取り組み

１年部会の取り組み（地域を知って、自分の命を守る）

①事前防災アンケート　10項目チェック
②自分でできる備えについて考えよう。
「生き延びる3日間」
③あなたは大丈夫？いざという時の地震
対策＆備え
④これからの備えについて見直す
⑤学習発表会（保護者へ発信）

防災教育（1年生）　28年度の流れ

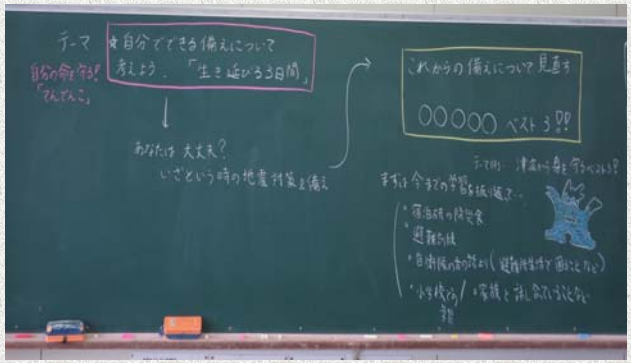


【防災教育１年生】
テーマ「（てんでんこ）をキーワードに震災について考える」　全20時間

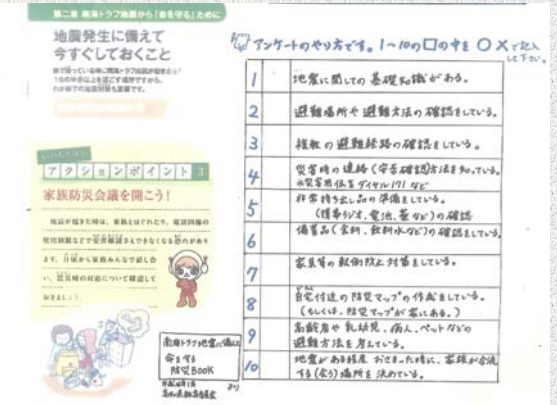
学期	月	学習過程	学習内容	体験活動
一学期	5月	ふれる（2）時間	避難訓練を体験し、その後の講演を聞くことで、震災について考える。	・保・小・中・高合同避難訓練 ・震災についての講話
		つかむ（予想する）（3）時間	震災の講話を通して、得たことを整理する中で、自分たちの生活の中の課題は何か考える。	・学習グループでの話し合いをする。
	6月 7月	調べる（確かめる）（5）時間	各地区の避難場所についてフィールドワークし、危険な箇所や課題について調査する。アンケートを行い、防災意識を調査する。	・各地区の避難場所についてのフィールドワーク ・防災のアンケート調査
		まとめる（4）時間	フィールドワークを通して考えたこと、学んだことをまとめる。	・各班でまとめて意見交流をする。
三学期	2月 3月	つなげる（6）時間	修学旅行における防災について新たな課題を見つける。	・防災について図書室で情報収集をする。 ・グループ別で調べる。

防災教育（1年生）「ふれる」

防災教育（1年生）「つかむ」



防災教育（1年生）「調べる」



防災教育（1年生）「調べる」

防災教育（1年生）「まとめる」（グループ）

防災教育（1年生）「発表する」（練習）

防災教育（1年生）「学習発表会」（参観日）

防災教育（1年生）「まとめる」（個人）

4.各学年の具体的取り組み

2年部会の取り組み（過去の南海大地震に学ぶ）

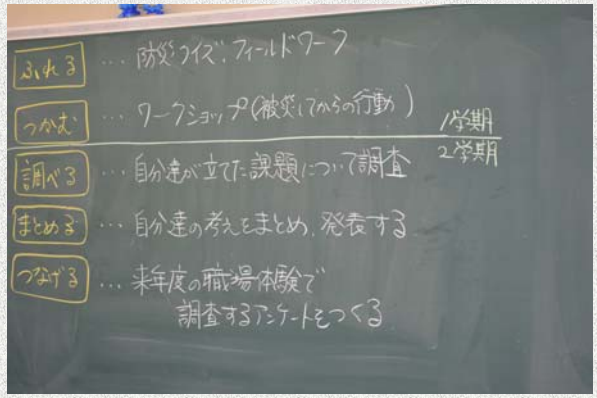
①防災クイズ
②安政の大地震の石碑（フィールドワーク）
　巨大地震がおきた後の予想される状況と自分の命を守るための行動（ワークショップ）
③それぞれの課題について調査する
④防災新聞にまとめる
⑤文化祭で発表（保護者・地域へ発信）

防災教育（2年生） 28年度の流れ

【防災教育２年生】テーマ「過去の南海大地震に学ぶ」　全 21 時間

学期	月	学習過程	学習内容	体験活動
一学期	5	ふれる（2）時間	避難訓練を体験し、その後の講演を聞くことで、震災について考える。	・保・小・中・高合同避難訓練 ・震災についての講話
		ふれる（3）時間	安政の大地震の石碑を見学し、震災について考える。	・安政の大地震の石碑についてのフィールドワーク
	7	つかむ（予想する）（4）時間	安政の大地震の講話を通して、得たことを整理し、課題を考える。	・黒潮町の震災についての課題を考える。（グループ学習）
二学期	9	調べる（確かめる）（4）時間	自分たちが立てた課題について、安政・昭和の南海大地震の文献を調査し、自分たちの立てた仮説が正しいか確認する。	・文献による調べ学習
		まとめる（6）時間	聞き取り学習を通して考えたこと、学んだことをまとめ、大震災への準備で何が必要かまとめる。	・各班でまとめて意見交流をする。
		つなげる（2）時間	学習した内容から黒潮町を防災に強い町にするためにどうすればいいかを考える。	・調べ学習のグループで考える。 ・発表する。 【来年度の職場体験につなげる】

防災教育（2年生） 流れ



防災教育（2年生） ふれる

防災教育（3年生） 28年度の流れ

【防災教育３年生】　テーマ「震災において自分たちにできることを考える」　全 15 時間

学期	月	学習過程	学習内容	体験活動
一学期	5	ふれる（2）時間	避難訓練を体験し、その後の講演を聞くことで、震災について考える。	・保・小・中・高合同避難訓練 ・震災についての講話（自衛隊の方の体験談）
	7	つかむ（予想する）（4）時間	震災の講話を通して、得たことを整理する中で、黒潮町の産業の課題を考える。「震災に強い町づくり」をキーワードにする。	・学習グループでの話し合いをする。
		調べる（確かめる）（6）時間	職場体験をし、その中で「震災に強い町づくり」について調査する。職場体験をしていただいた方にアンケート調査を行い、防災意識を調査する。	・職場体験での聞き取り学習 ・防災についてのアンケート調査
二学期	9	まとめる（5）時間	職場体験を通して考えたこと、学んだことをまとめる。	・各班でまとめて意見交流をする。
	10	つなげる（3）時間	「震災に強い町づくり」について学んだことを将来の生き方に活かす。	・将来震災にあったときに自分に何ができるか考える。

6.今後の『防災教育』の課題

防災教育をどのようにして総合的な学習に位置づけるか？

・学習指導要領の総合的な学習の目標が達成されるための年間計画の見直しをする。
・防災教育、人権教育、キャリア教育をトータルで考え、従来の形から脱却する必要がある。

・「新庄地震学」のように子どもたちがいきいきと活動する場面を仕組み、学校に文化として根付く防災教育の流れを作りあげること。

大方中学校の防災教育で目指すこと

命を守る「津波てんでんこ」

(1) それぞれの場所で、それぞれが確実に避難し
(2) そのことを信じて「自分自身が確実に避難する」こと
(3) そして、一度避難したら絶対に元に「戻らない」こと

⇒「犠牲者ゼロの町、黒潮町」
（黒潮町長の宣言）